

■設問 I

〈出題意図〉

設問 I の題材は近年急速に拡大したオンライン教育について書かれた New York Times の記事である。オンライン教育では、従来の教室での授業のような即時性や双方向性に欠ける、画一的なアプローチになりがちで、最高の教育とは教師と生徒のコラボレーションであるという考えを筆者は展開している。受験生には、教育のあり方について考察する機会や批判的思考力を身につけてほしいと願い、この文章を出題した。

〈評価のポイント〉

問 1

筆者の意図を正確に読み取ることができるかどうかをみた。

問 2

文脈から適切な英語を推測できるかどうかを見る問題である。与えられた時間の中で、求められた情報をすばやく探すことが出来るかをみた。

問 3

本文の内容を読み取り、日本語で誤字脱字なく、簡潔に筋道立ててまとめる力があるかどうかについてみた。

問 4

自分の考えについて実体験を挙げながら、まとまりのある英文で自分の意見を述べる事が出来るかどうかをみた。また、合わせて、文法力、語彙力、スペリング、などの英語の知識についてもみた。

〈採点講評〉

問 1

正答率が低かったことから全体的な読解力の不足が懸念される。受験生には、日頃からできるだけ多くの英文記事を読む習慣をつけ、長文の読解力を養ってほしい。

問 2

選択肢の単語はどれも基本的なものであったが、正答率が低かったことから、前後の文脈を正確に理解しきれていないようであった。日頃から、ただ英文を読むだけではなく、前後のつながりについて意識しながら読む習慣をつける必要があるだろう。

問 3

オンライン授業に関しては、最低 1 つ以上は概ね書いていたが、本文を正しく理解できていない部分も見られ、コロナの状況をオンライン授業と勘違いしたり、本文を離れての推測も見られた。

問 4

実体験はよく書けている受験生が多かったが、それを踏まえて筆者の意見に対して、ディスカッションするという視点が欠けているように見受けられた。また英語の文法上のミスにより内容が理解できない文章も少なからず見られた。

■設問Ⅱ

〈出題意図〉

人間の本質や特性について書かれた二つの文章を読み、慣れない単語や言い回しに惑わされずに英文の主旨を読み取る力、およびそれぞれの筆者の立場の違いを見分ける力を主に問うた。[A]の文章では“*Homo sapiens is also Homo reparans.*”という文章を、[B]の文章では、“We are potential only”の文章を理解できるかどうか、が重要な点となる。時代や地域を超えて先人たちが語ってきた人間論に触れることで、人間の本質を見つめようとするものの奥深さを知り、人間に関する探究を深める機会になってほしいと願い、出題した。

〈評価のポイント〉

[A]と[B]それぞれの文章の主なポイントを理解し、端的な日本語で表現できるかどうかをみるとともに、[A]と[B]で示されている人間観の違いと自身の考えを英語で表現できるかどうかをみた。

〈採点講評〉

問1

「人間は修復する生き物である」ということが書かれた解答は多かったものの、修復する対象として人間関係があることにまで言及できていたのはごく少数だった。

問2

人間の本質論に関する文章をなんとか理解しようとする姿勢が見えた。一方で、自分自身の思考枠組みの中に当てはめる形で文章を理解しようとするか、文章に描かれた自分とは異なる視点をそのまま理解しようとするかで点数に差が開いた。

問3

自分の考えを自由に書けばよい問題として出題したが、中学英語の基礎的な知識が欠落していて内容を理解できない解答が少なくなかった。抽象的な議論を展開することは難しいとはいえ、使用するの基礎的な単語と文法だけでよいので、相手に伝わる文章にすることを心がけるのが重要である。受験生には、多くの英語の長文を読み文章力や語彙力をつけてほしいが、それ以上に、中学英語を総復習して基礎的な文法を習得するとともに、すでに知っている英単語を駆使して筋道を立てて自分の意見を述べる練習をしてほしい。